

# 校長室便り

(文責)  
トー八  
日本人学校  
校長 酢谷昌義



単元テストに取り組む2年生

## きょうは「父の日」!

6月の第3日曜日は「父の日」です。母の日に比べて影が薄いような気がしているのは私だけでしょうか。母の日にカーネーションを贈るということはよく知られていますが、「父の日に贈る花は?」と聞かれて、答えられない人もいないのではないかと思います。父の日に贈る花は「バラ」だそうですが、あまりその日にバラを目にした記憶もありません。

こんな愚痴のようなことを書きたいわけではなく、父親の役割について考えてみたいと思います。

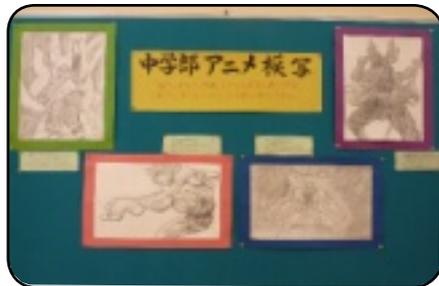
学校は子ども達の社会化を促すところだということは、今までにも触れています。集団の中の自分、集団の中の相手を意識させ、そして互いの思いや考えを伝え交換できる人間関係を築いていかねばなりません。そのためには人間関係の基礎基本となるあいさつや返事、言葉遣いや時間を守ることなどを繰り返し指導することになります。子ども



3年生の学習の様子

達にその意味が理解できないことでも、身に付けさせなければならぬことは徹底しなければなりません。だから学校は「父性の場」だと言われています。

このように、子どもの成長には前面に立ちほだかるものが必要です。亡くなられた河合隼雄さんは、その前面に立ちほだかるものを「父性」と表現しておられます。そしてこの父性を父親がきちんと発揮していないのではないかと



中学部「美術」の作品

### 中学部 「期末テスト」 始まる!

今日から3日間、中学部では期末テストが行われます。これに備えて、4人は何日前から計画的に学習を進めて来ました。これまでの学習の成果をしっかりと発揮できるように、精一杯取り組んでほしいと思います。

「もう少しやっておけば良かった…」という後悔は、必ず繰り返してしまいます。できる

いうことを、養老孟司さんが指摘されています。父性は父親だけが持つものではありませんから、母親がその両方をうまく使い分けていれば問題はありません。その場合父親の役目はどうなるのでしょうか。養老さんは「妻の良き理解者になること」と言われています。しかし、これもなかなか難しいことかも…。

父親も母親もどちらも父性を発揮できなければ、子どもの成長にとっては問題です。最後に子どもを大きく包み込むのが母性ですが、母性だけでは決して健全な成長は望まれません。

現代は父親が父性を発揮しにくい時代と言われています。父親の役割は、今まで以上にますます重要になっています。

限りの準備をし「これだけやっただから」と自信を持って言えるようであれば、結果の良し悪しはあったにしても、きっと自分の力を伸ばすことができていると思います。

みんな全力で乗り越えよう!



期末テストにのぞむ中学部

# 校長室便り

(文責)

トー八  
日本人学校

校長  
酢谷昌義



集中して読む「朝読書」

## 学校読書調査結果から

全国学校図書館協議会の機関誌に「学校図書館」という冊子があります。その中に昨年6月に実施された「全国小・中・高校生の読書調査結果」というものがありましたので紹介したいと思います。

この調査結果によると、昨年の5月一か月間に子ども達が読んだ本の冊数は、

- 小学生 = 8.6冊
- 中学生 = 3.7冊
- 高校生 = 1.7冊

ということでした。

小学生は前年11.4冊だったものが3冊近く少なくなっていますが、ここ10年間は着実に冊数を伸ばし、近年は8冊から9冊台を維持しているそうです。また中学生は、昨年の3.9冊からやや下がりましたが、ここ数年ほぼ3冊台を維持しているようです。高校生は、昨年の1.5冊からやや数値は上がったものの、依然として平均1.5冊台と極めて低い水準です。

またこの調査は、不読者(5月一か月間に1冊も本を読ま

なかった者)も調査しています。それによると、

- 小学生 = 5.4%
- 中学生 = 13.2%
- 高校生 = 47.0%

となっています。高校生の半数近くが全く本を読んでいないという状況は、このところずっと続いているようです。

学年が上がるにつれて読書量が減少し、不読者が増えていくというのはどうしてもしょう。確かに中・高校生は勉強や部活動で忙しく、読書の時間が取りにくい状況は



みんな良く本を借りています

あると思います。しかし自分に読書の意欲があれば、たとえわずかな時間であっても本に向かうことはできます。そう考えると、読書の意義や喜びを知らないからではないかと私には思えます。

自己を確立し生き方を考え始める中・高校生時代に、じっくりと読書に親しむかどうかは極めて重要なことだと思います。小学生のうちに、いろいろなジャンルの本に向かい、本を読む楽しさをぜひ実感させておきたいと思います。そうすることで、忙しさの中でも読書をしようとする気持ちを持った子どもにできるのではないかと思います。

「人間として、人間らしく生きるために読書は欠かせないもの」ではないかと、私自身は考えています。

### 厳しい暑さに負けず 頑張る植物たち！

教室の窓際に置かれたプランターや、鉢に植えられた植物たちは、この暑さに負けず元気に育っています。

とは言え、一時の勢いがなくなってきたように見え心配しています。先週の記録温度計では、連日48度を記録しています。この気温ではこれから先うまく育たなくなるのではないのでしょうか。

せっかくここまで頑張っ

育ててきたものです。暑さの中で生きようとしている植物たちに「がんばれ！」と応援してやりたくなります。



「あさがお」と「モロヘイヤ」



6月の「おすすめ本」のコーナー

# 校長室便り

(文責)

ドー八  
日本人学校校長  
酢谷昌義

今回も大変お世話になりました

## 大使館見学のお礼から

先週大使館の見学をさせてもらい、そのお礼を感想も交えて全員が書きました。高学年が書いたものを中心に、その1部分ですが紹介します。

北爪大使様のイスにすわるのはカタールだけだと思います。北爪大使様はやさしくて大好きです。

北爪大使のイスはとても気持ちよかったです。わたしたちが喜ぶようなことを考えて、させてくださる北爪大使が大好きです。大使夫人も親切で、いろいろなことを話してくださるので大好きです。北爪大使も大使夫人も、いつも日本人学校をおうえんしてくださるのでうれしいです。

城にしかないような、とてもごうかな場所で弁当を食べさせてくれてありがとうございました。きちょうな地球ぎをさわらせてくれたり、大使のイスにすわって写真をとってもらったり、北爪大使はとってもやさしかったです。

私が1番すごいと思ったことは、川村さんがこの仕事をしようと思った理由です。私は自分がやりたいことを、責任を持ってできるというのは、すごくかっこいいと思いました。また外国にいても選挙に参加できるというのはすごいと思いました。

僕が1番心に残ったことは、パスポートとビザをつくる機械です。ビザをつくる機械はすぐ人の顔を認識して日本は「やっぱすごいな～」と思いました。川村さんの話で、自分からこの中東に進んで来て、今危ないイランにも行ってみたいと言っていたので「カッコイイな～」と思いました。

私は経済と聞くと、難しいなあと思ってしまいうんですが、輸入や輸出が深く関係しているお金の動きが主なものだということを知りました。世界の幸せを考えておられるのはすごいと思いました。

日本の文化を広報するのは大変だと思うのに、1分間にまとめてDVDにしたり、雑誌にまとめたり工夫されているのに驚きました。私はそのDVDを見て、日本が恋しくなるほどよくできていると思いました。

天野さんに見せていただいたDVDの「YOKOSO JAPAN」はおもしろい映像でした。天野さんのことはスピーチ大会やその他の行事でよくお目にかかりますが、働いている姿を見るとすごいなあと思います。次に学校でイベントがある時は、僕もお手伝いしようと思います。

毎日アラビア語の新聞やテレビを見て、政治の動きを日本に報告するのは大変なんだ

ろうなと思いました。通訳の仕事もすごいと思いました。

大使に仕事のやりがいを質問した時「ドー八日本人学校を開くことができたことです」と言われとても印象深く残っています。日本ではできない体験を何度もでき、安心して生活できることは北爪大使をはじめ大使館の方々のおかげだと思います。

西田さんの話を聞いて、カタールの人たちは日本人と違って時間を守らないことがあるという点は、僕も何回も経験しています。これからもドー八と日本の関係をさらによくしてってください。僕たち中学部も、今回の話を生かしていきたいと思います。

本間さんの話から日本とカタールの関係をより深く知ることができました。輸出入の流れをよくする。カタール人に日本の持つ技術をアピールする。そしてカタールと日本、2つの国の関係を促進していく。ご苦労も多いかと思いますが、頑張ってください。



一人一人がお礼を書きました

# 校長室便り

(文責)

ドーハ  
日本人学校校長  
酢谷昌義

## 多様な遊びを通して

休み時間の過ごし方がずいぶん変化してきました。以前は毎日のように「こおりおに」をしていましたが、児童生徒数の増加とともに遊びの種類も増え、子ども達の中にいるいろいろな集団ができるようになってきました。それによって、より子どもらしさが発揮できるようになってきたのではないかと感じています。子どもらしさの発揮というのは、わがままも含めて自分の感情を相手にぶつけられるということでもあります。

常に全校で、しかもその中に先生や大人が入っていると、あまりもめ事は起こりません。しかし、それはあまり望ましい姿ではありません。素直な感情の交流を繰り返し経験しない限り、社会性は育たないからです。

分かりやすく言うと、自分の周りには思い通りにならないことがたくさんあるということを知らなければならないということです。幼い子どもがそれを最初に知るの、や



最近の流行「フリスビー」

はり遊びの中なのだと思います。それぞれの遊びにはルールがあります。自分のしたいことだけができるわけでも、自分だけが良い思いができるわけでもありません。おもちゃや道具も独り占めできるわけではないというようなことから、徐々に他の人や集団を意識することができるようになるのではないのでしょうか。

こういうことは、子ども達の素直な感情の交流の中から学ぶことなのです。いろいろな遊びを通し、いろいろな集団に属し、自分とは異なる様々な人との交流によって理解できることなのだと思います。

休み時間の様子を見てみると、子ども達の中に小さな衝突が見られます。お互いに自分の思いをぶつけ合いながら、



バスケットボールも盛んです

何とかうまく乗り越えているようです。その時に自分の方が折れなければならない場合も出てきます。謝らなければならないことだってあります。相手を許すことも覚えなければなりません。

こうした社会性の基礎を築いていく上で、子ども達にとっての遊びは大変重要です。日本と異なり、下校してからの遊びが思うようにできないことを考えると、学校での遊びは本当に大切だと思います。



絵を描いて過ごす子ども達

### みんなのために頑張る！「委員会活動」

毎週水曜日は全校昼食の日です。今日も中間休みを使って、昼食委員会のみんなが机を並べ、ていねいに拭いてくれていました。決められた仕事とはいえ、任せられたことをきちんとやり遂げるといったことはとても大切です。

今年度はどの委員会も、とても意欲的に取り組んでいるように感じます。みんなのために自分の力を使う委員会活動というのは、本当に貴重な

ものだと思います。

人の役に立つ喜びを、できるだけ幼い時から繰り返し経験させることは、どうしても必要なことだと考えます。



昼食委員会のみんな